

平成 29 年度 第 2 回伊勢市子ども・子育て会議 議事録

日 時 平成 30 年 1 月 18 日 (木) 午後 2 時 30 分～午後 4 時 40 分

場 所 伊勢市防災センター 防災研修室 1

出席委員 深草、花田、高橋、岩崎、尾関、伊寿、中村、杉山、大西、北川、中井、
角谷、藤田、山口、江原

事務局 健康福祉部

・鈴木参事

・こども課 藤原課長、戸上副参事、北村こども育成係長、堀川保育係長、
須川保育施設管理係長、福田、児玉

・健康課 樋口母子保健係長

教育委員会

・濱口教育総務課長、教育総務課西野

・植村学校教育課長、学校教育課奥田指導主事

・岩村社会教育課長、阿部社会教育課長補佐

議 題

- (1) 「伊勢市子ども・子育て支援事業計画」平成 29 年度実績 (見込) について
- (2) 「伊勢市子ども・子育て支援事業計画」平成 30 年度計画について
- (3) (特定) 教育・保育施設の利用定員・確保策について
- (4) 就学前の子どもの教育・保育についての今年度の取り組み状況について
- (5) 保育所運営における事業の報告について

・事務局より開会挨拶、参事挨拶、委員・事務局紹介、資料確認、会議成立宣言、会長挨拶

【事務局より】

議題（１）について説明（資料１）

議題（２）について説明（資料２）

議題（３）について説明（資料３－１、３－２）

議題（４）について説明（資料４）

議題（５）について説明（公立保育所の民間への移管、任期付保育士採用について）

【委員からの意見（資料１）】

○項目 16「ファミリー・サポート・センター事業の充実」について、状況を教えて欲しい。
→目標値に届かないということで、事業が継続できないものではない。より事業の充実を図るためには提供会員を増やすことを考えていかないといけない。

（「→」は事務局回答の意）

○項目 1「妊婦健康診査、妊婦歯科健康診査の充実」について、98.9%という数字は素晴らしい実績であり、項目 19「新生児訪問指導の充実」というところも充実してきて喜ばしい。

○項目 24「子育て支援センターの充実」での延べ利用者数 34,636 人は多いのか。また、7ヶ所にしたいということだが、現在の5ヶ所では足りないということか。
→昨年の会議（H29.1.19）時点より、2,000 人程度減っているが利用者はそれだけいる。設置については、遠い地域もあるため、利用しやすい場所に新たに設置をしていきたい。

○項目 60「利用者支援」できらら館の利用者も増えているか。
→今年度の途中実績の数字はないが、平成 28 年度の相談は 223 件。今年度も同数程度になるかと推測。相談内容としては保育所・幼稚園の相談が多い。

○項目 52「児童虐待防止の支援の充実」について、今年度の児童虐待の数というのは何件くらいか。また、どういう形の相談が多いのか。
→今年度上半期の数字では、全体（こども家庭相談センターにおいて）での相談件数は 112 件、児童虐待は 42 件。全国同様伊勢市でも右肩上がりの状況にある。
相談については、学校、保健センター、庁内（福祉事務所）、家族、親戚、知人、近隣（泣き声通告含む）から。

○項目 22「乳幼児訪問指導」と項目 46「養育支援訪問事業」について、年齢で分けてやっていると思うが、親に注意する際、少し離れた立場の方、違う方面からの指導の方がこどもの指導に効果がある場合があり、その子の兄弟の様子も大事になってくる。
当然、その該当の園・学校からも訪問指導していただくことは有効かと思うので、ぜひ続けていっていただきたい。

→家庭訪問・園への巡回訪問は毎月の会議の中で問題発見し、対応を話し合っている。先ほどの現場の声を持ち帰り、いろんな支援の方に力を入れていきたい。

○利用者支援はきらら館で、電話実施は大世古保育所で電話での相談をしているようだが、相談の組織化を図っていただきたい。

→いろいろな相談窓口があり、それぞれ専門とするものがある。いずれの窓口にしても相談できる機会・場所が多くあれば相談しやすいので、関係機関との情報共有も十分に図ってきたい。

また、「生活サポートセンターあゆみ」を今年度4月から立ち上げており、そこから関係機関につないでいくということもしているため、そちらも今後充実させていきたい。

【委員からの意見（資料2）】

○項目4「不妊不育治療の支援の充実」について、現状はどうか。

→年間200名前後の助成している。国は43歳までの補助という枠を区切ってきている。

晩婚化が進む中で後ろの年齢に集中してきており、低出生や難産が増えてきているため、費用助成をしていきながら安全な妊娠・出産に協力していきたい。

○項目29「放課後子ども教室の充実」について、講師というのはどういう方が中心か。

→伊勢文化サークル協会に事業委託しており、その協会の代表の方が中心となっている。そこにいくつか文化サークルがあり、陶芸やお菓子作りなどを行っている。

○項目60「利用者支援」について、きらら館の年間利用者はどれくらいか。

→子育て支援センターきらら館の平成28年度の年間利用者数として20,432人だが、利用者支援事業に関しては、それ単独での数字というのは把握はしていない。

【委員からの意見（資料3-1）】

○幼稚園がいきなり0歳児を預かるわけだが、保育士の数とかが増えるのか。

→0歳～2歳の受け入れを新たに行うことになるため、それに対応できる保育士を配置していただくことになる。

⇒委員の異議なく1～4番承認

【委員からの意見（資料3-2）】

○市の数字だけで言えば十分に量は確保できるが、希望や地域差からするとどうしても待機児童が出る一番大きな理由は何か、

→小俣地域で新興住宅が発展してきているため、その近くの保育園を希望されても入れない方が多い。公立・私立についての差はあまりなく、近い園、通勤しやすい園に集中しており、また、兄弟姉妹が通っている園、延長保育をしている園が選ばれる要因かと思われる。

○兄弟で違う園に行かないといけないというのは保護者にとって二重の負担になっている。

→入所の判定には上の子がいる場合は加点をしており、多くの方は一次の時点で入れるが、年度の途中になってくると、下の子が入りたい、特に低年齢児だと、なかなか入りづらい状況にある。

○市の方でもベターな方向で進めていただきたい。待機児童は散々問題になっており、伊勢市でもあるということだが、量（確保）としては足りていると。待機児童の数は「26+39+26（資料3-2）」を足したらいいのか。

→現時点で第一希望に入れない、対応できない数が3つの合計になる。今後は第二希望以降の園で調整していくため、入れない方の数はもっと減る。

【委員からの意見（資料4）】

○幼保の連携は確実に定着したのではないかと思うが、どうか。

→相互交流において、どの園も協力的で受け入れ時の対応する年齢を幼稚園並みの年齢か低年齢児にするかを考えていただいている。

実際に体験し、お互いの幼稚園や保育園の違いなどについてそれぞれの立場を話し合っ
てながら交流できるので、すごく生きがいになっているという話を聞く。

○幼保連携の子どもたちについて、小学校から距離が離れている幼稚園、保育園はどうか。
また、立地条件によって差があるのはどうかと思うが。

→そこは課題である。また、小学校側は10施設くらいの受け入れが多いため、就学時健
診とか説明会のときに集める学校もある。

○小学校において年間行事の中に幼保連携を何月くらいまでにすると位置付けていると
ころが結構出てきており、定着していると感じる。

また、この連携というのは子どもの発達課題というのを早期に発見・対応し、小学校へ
の滑らかな接続というのが可能になって、4月からの適格な支援につながっているとい
うのが現状で、この事業というのはぜひ継続していただきたい。

○小学校で9校のべ43人というのが多いのか少ないのか、これはどういう方か。また、伊
勢市の小学校の先生は全部で何名で、その中でこの数字というのはいくつか。

→管理職や低学年の先生が行くこともある。小規模校などは先生全員で全員を見ていく
という体制を取るために、全員が参加するところもある。

また、小・中学校の先生が約700名であるため、決して43名というのはいくつかではない。

○早期発見は非常に大事で、伊勢市の方でも5歳児健診実施を医療の立場からお願いしたい。

→5歳時の健診からつないで小学校へ入学し、将来的に社会に出ていける間のところを発
達支援室が担う必要がある。今年度は2園、モデル的にしているが、来年度以降のやり
方を検討中である。

○発達支援関係で一番気になるところは、うちの子は何ともないと思っている家庭にいつ言ったらいいか苦慮しているため、5歳の健診をピックアップしたお子さんを対象にやっていただくとありがたい。

→できれば年中さんの時期に取り組みをし、その後1年間で三重県のCLMというシステムを使いながら、来年度にかけて全園に取り組みをお願いしつつ、年長さんの時期にお子さんも過ごしやすいような形のものを拾っていきたい。

○こども発達支援室というのは三重県の中でもそういう支援室はあるのか。

→四日市、桑名、松阪でも特化した組織というのはあるが、県全部ではない。

【その他】

議事録のホームページへの公開、第2期事業計画策定を来年度以降進めていくことの説明

以上